



株主メモ

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)	定時株主総会	毎年6月開催
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	公告方法	電子公告(当社のホームページ http://www.tdk.co.jp/に掲載いたします)
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日	単元株式数	100株
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときは あらかじめ公告いたします)	株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お問い合わせ窓口
配当金の受取方法の指定、変更 単元未満株式の買取・買増請求 住所変更、名義変更等	証券会社等にて当社株式をお持ちの株主様 ▶お取引のある証券会社等へお問い合わせください。 特別口座にて当社株式をお持ちの株主様 ▶三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。
未払配当金の照会、支払い	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

お知らせコーナー

● 配当金の受取方法について: 配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします。
● 単元未満株式の買取・買増請求について: 単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご活用ください。 (但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください)
● 今回お送りした「配当金計算書」について: 確定申告を行う際、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管ください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) (受付時間:9:00 ~ 17:00 ※土日休日を除く)



この冊子は植物油インクを使用しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

TDK株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目9番1号
http://www.tdk.co.jp/



TDK Today
Vol.60
2017年4月1日 ▶
2017年9月30日

特集:IoTを支えるTDKの
“パワーソリューション”

株主の皆様へ

半期の売上が過去最高を更新
さらなる収益拡大を実現して
まいります。



代表取締役社長 石黒 成直

2018年3月期上半期業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2018年3月期上半期(2017年4月1日から9月30日までの6ヶ月間)の業績についてご報告申し上げます。

当上半期におけるエレクトロニクス市場を概観しますと、自動車市場は、自動車の電装化の進展による部品搭載点数増加の傾向が続き需要が拡大しました。

産業機器市場は、旺盛な半導体投資や企業の自動化投資などにより堅調に推移しました。また、ゲーム機やエアコンなどの家電製品向けの需要も堅調に推移しました。一方、ICT(情報通信技術)市場では、スマートフォンの生産で一部調整が見られました。

このような経営環境の中、2018年3月期上半期の連結業績は、売上高が前年同期比7.7%増の6,236億円、営業利益が前年同期比4.6%減の423億円、当期純利益が前年同期比6.1%減の307億円となりました。

2018年3月期 上半期連結業績概要

売 上 高	6,236億円 (前年同期比 7.7%増)		
営 業 利 益	423億円 (	同	4.6%減)
当期純利益	307億円 (	同	6.1%減)

当上半期は、半期ベースの売上が過去最高を更新しました。また、営業利益については、前期に高周波部品事業の一部を譲渡した影響を既存事業の収益拡大により吸収し、前年同期と同水準の利益を確保しました。

2018年3月期下半期見通しについて

第3四半期を中心に今後の事業セグメント別の売上見通しは、以下の通りです。

■受動部品については、自動車市場及び産業機器市場が引き続き堅調に推移することが見込まれ、コンデンサ、インダクティブデバイスを中心に販売が好調に推移する見通しです。

■センサ応用製品については、自動車市場向けの温度・圧力センサ及び磁気センサの販売が堅調に推移、また、MEMSセンサの販売はほぼ横ばいとなる見通しです。

■磁気応用製品については、HDDヘッドの出荷数量が減少する一方、サスペンションが若干増加、ICT市場向け微細電子部品は増加、磁性製品及び電源についても、産業機器市場向けの販売が堅調に推移する見通しです。

■フィルム応用製品である二次電池については、大手得意先の新型端末発売に向けた出荷が本格化することに加え、中国得意先向けの販売も引き続き好調に推移する見通しです。

業績と配当の見通しについて

以上の売上見通しなどを踏まえた2018年3月期の連結業績及び1株当たり配当金の見通しは、以下の通りです。

売 上 高	1兆2,500億円 (前期比 6.1%増)
営 業 利 益	850億円 (同 59.3%減)
当期純利益	600億円 (同 58.6%減)

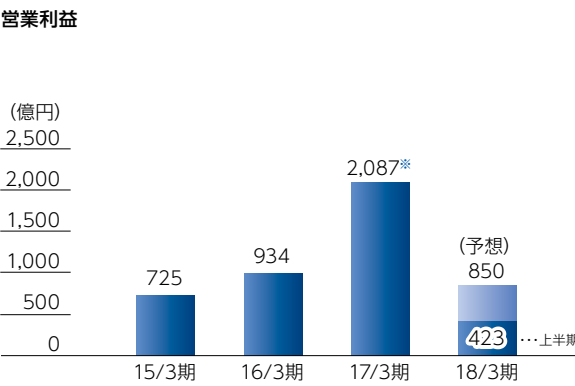
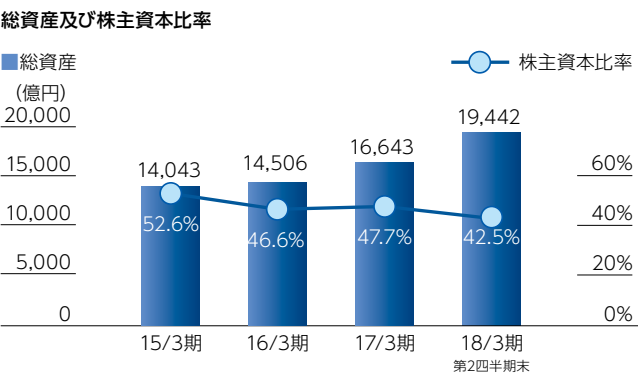
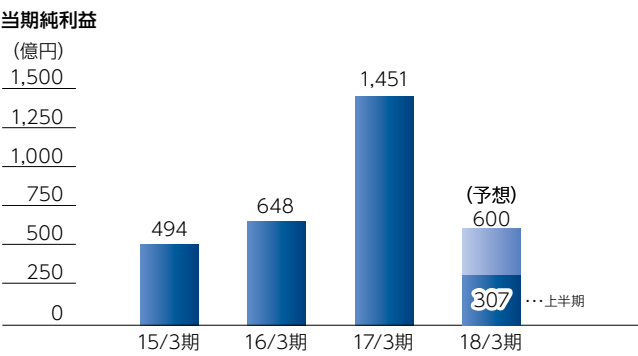
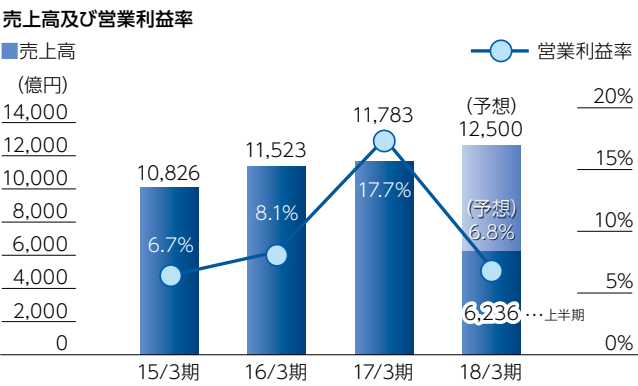
※第3四半期以降の平均為替レートは対米ドル108円、対ユーロ127円を想定(2017年10月30日時点)
※前期の営業利益には、高周波部品事業における合併会社設立に伴う事業譲渡益が含まれています。

中 間 配 当	60円 (前期実績 60円)
期 末 配 当	(予想) 70円 (同 60円)
年 間 配 当	(予想) 130円 (同 120円)

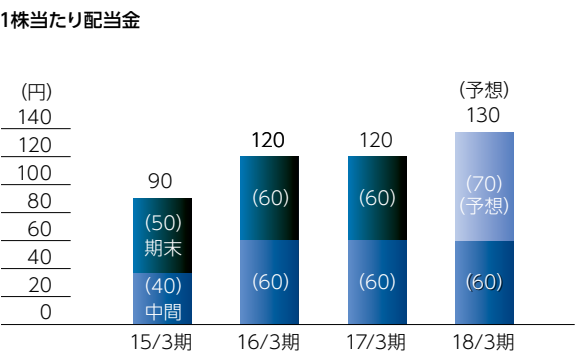
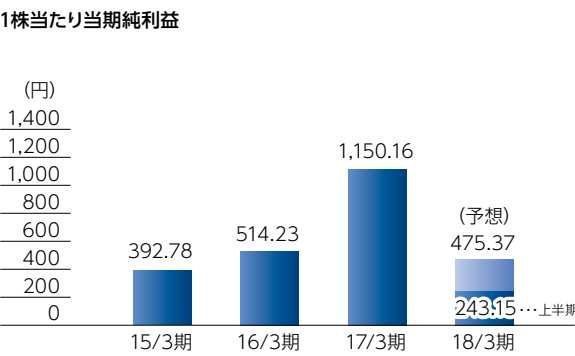
当社が注力する自動車、ICT、産業機器・エネルギーの重点市場を中心に電子部品の需要は継続的な成長が見込まれています。今後は、これらの市場に対して、当社の素材・部品技術に磨きをかけ、製品の競争力を高めていくとともに、付加価値の高いソリューションを提供していくことで、さらなる収益拡大を実現してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 石黒成直

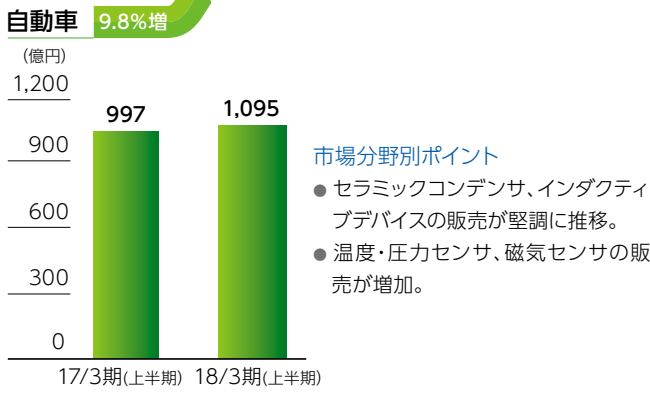
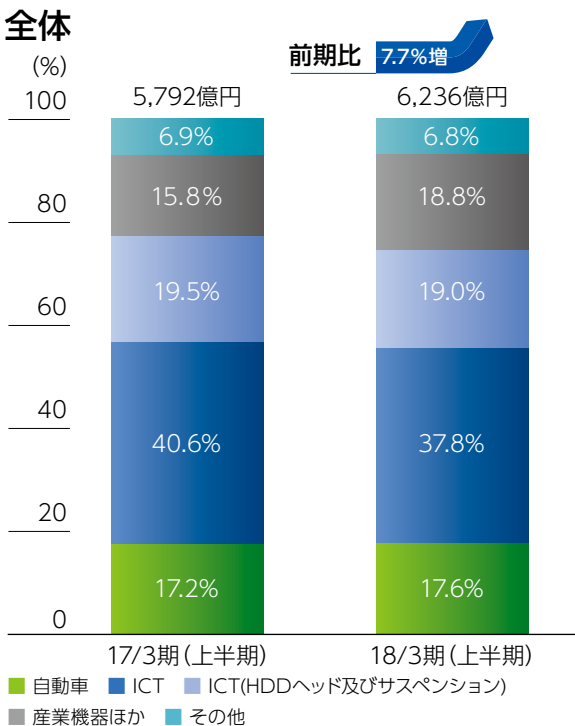
■主要財務指標等の推移 (予想:2017年10月30日発表)



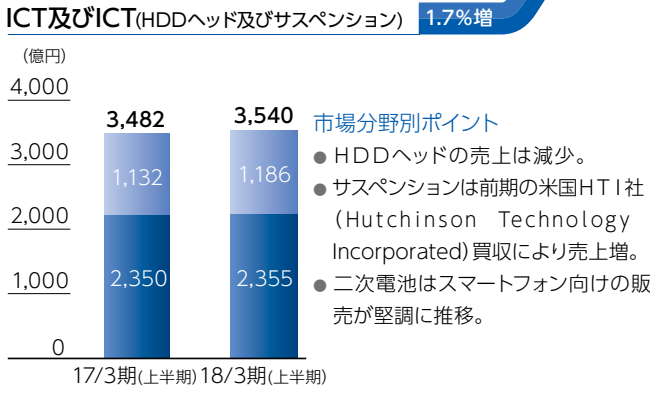
*高周波部品事業における合併会社設立に伴う事業譲渡益1,444億円が含まれています。



■重点分野別売上の状況 (2018年3月期上半期)

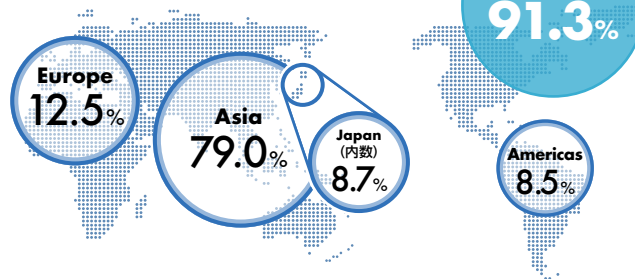


- 市場分野別ポイント
- セラミックコンデンサ、インダクティブデバイスの販売が堅調に推移。
 - 温度・圧力センサ、磁気センサの販売が増加。

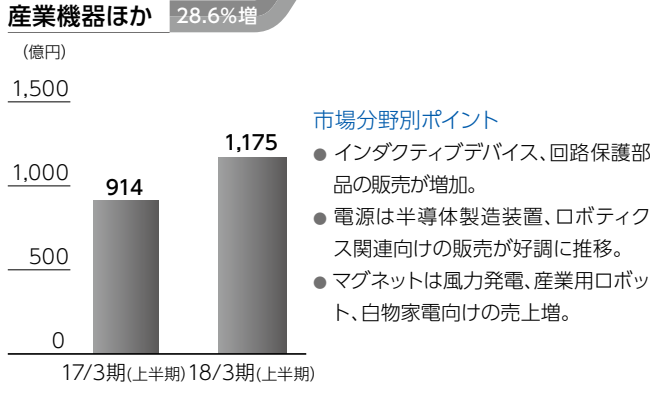


- 市場分野別ポイント
- HDDヘッドの売上は減少。
 - サスペンションは前期の米国HTI社 (Hutchinson Technology Incorporated) 買収により売上増。
 - 二次電池はスマートフォン向けの販売が堅調に推移。

■地域別売上構成 (2018年3月期上半期)



TDKグループはグローバルに事業を展開しており、海外売上比率は90%を超えています。また、地域別では、日本を含めたアジア地域が79.0%と、最も大きな割合を占めています。



- 市場分野別ポイント
- インダクティブデバイス、回路保護部品の販売が増加。
 - 電源は半導体製造装置、ロボティクス関連向けの販売が好調に推移。
 - マグネットは風力発電、産業用ロボット、白物家電向けの売上増。



第16回「IAAF世界陸上競技選手権大会」に協賛

TDKは、1983年の第1回ヘルシンキ大会からオフィシャルパートナーとして「IAAF世界陸上競技選手権大会」に協賛してきました。今年は、8月4日から13日まで英国のロンドンで開催され、200以上の国と地域から、史上最多となる2,000人を超えるトップアスリートがエントリーし、10日間にわたる熱戦を繰り広げました。開催期間中、100m競走のスタートボードとトラックを取り囲むスタジアムボード、そして男子ゼッケンに“TDK”のロゴが掲示され、様々なメディアを通じて世界中にTDKブランドをPRする絶好の機会となりました。



▲9.58秒選手権コーナー

特設企業PRブース

スタジアムに設置した特設企業PRブースでは、TDKの技術を体感できる陸上競技にちなんだアトラクションを開催しました。男子100メートルの世界記録9.58秒にどこまで迫れるか体験できるコーナーが大きな盛り上がりを見せるとともに、現在のTDKの事業内容を知っていただく良いきっかけとなりました。

※TDKグループ企業であるInvenSense社（米国）のセンサを搭載した機器を用いて測定



▲参加した学生への直接指導

陸上教室を主催

世界陸上の開催に先立ち、ロンドン市内の中学校で陸上教室“Rising Stars Clinic”を主催しました。世界のトップアスリート5名を講師としてお招きし、地元学生を直接ご指導いただきました。



▲来場者で賑わうTDKブース

CEATEC JAPAN 2017に出展 ～技術とソリューションで、つながる社会へ～



▲ウェアラブル機器と超薄型ピエゾアクチュエータを組み合わせた体験デモ



▲InvenSense社のモーションセンサが採用されているVRシステムのデモ

TDKは、本年10月3日（火）から6日（金）まで、千葉県の幕張メッセで開催されたアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス展示会「CEATEC JAPAN 2017」に出展しました。CEATEC JAPAN 2017全体の総来場者は152,066名（昨年比4.7%増）で、会場は幅広い業種・業界の来場者で賑わいました。

AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）、VR（仮想現実）が実現する近未来の豊かな生活。TDKの出展ブースでは、「技術とソリューションで、つながる社会へ」をテーマに掲げ、そのような生活を支える技術を多数展示し、数多くの来場者にお立ち寄りいただきました。

また、TMR角度センサを使用し、ロボットアームを正確な軌道で遠隔操作するデモや、センサを活用したVRシステムのデモなどの様々な体験型デモを通して、これからの“つながる社会”に貢献できるTDKの技術力を大きくアピールすることができました。

特集 IoTを支えるTDKの“パワーソリューション”

あらゆるモノの省電力化が急務

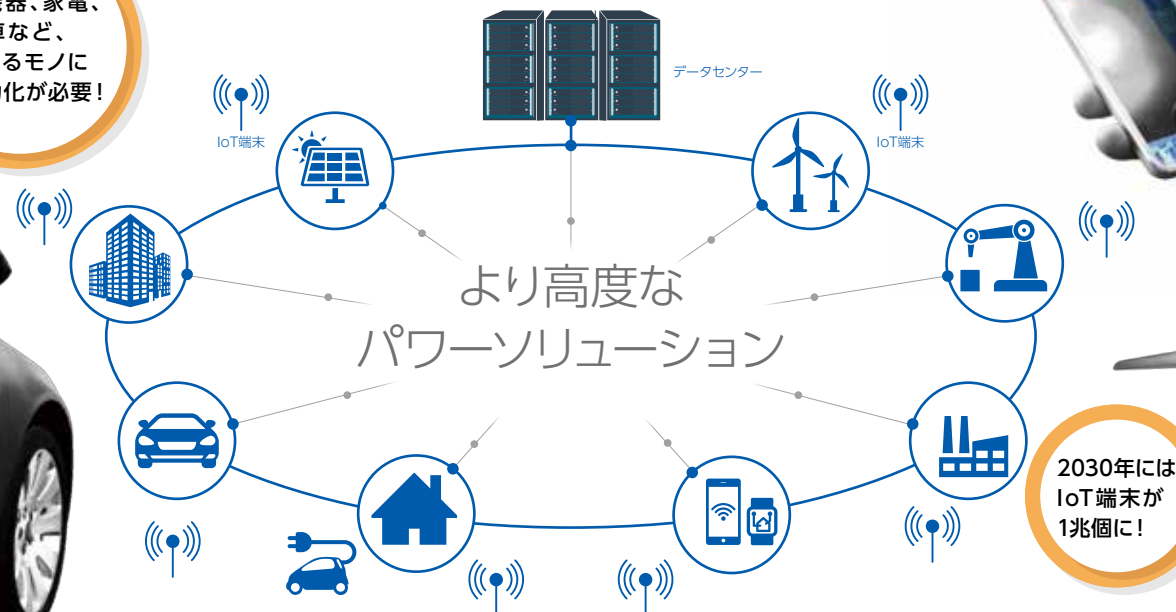
近年、クラウドコンピューティングによる情報量の爆発的な増加とともに、データセンターやIT関連機器の電力消費量は急増しており、2025年には、IT関連の電力消費量が世界の電力消費量の約15%を占めるようになるとも予測されています。さらに、これから到来するIoT(モノのインターネット)時代においては、センサ機能と通信機能をもつIoT端末*が、身の回りの多くのモノに搭載されて、インターネットにつながります。その数は、2020年に500億個、2030年には1兆

個にのぼるともいわれており、電力消費量はいちだんと増加することが見込まれます。このように、今後増加し続ける電力需要に対応するためには、ICT機器、家電製品、自動車、産業機器、送配電システムにいたるまで、さらなる省電力化が必要となります。そして、さまざまなIoT端末を組み込んだ、より高度なパワーソリューションを駆使し、高効率・低消費電力のエネルギーシステムを構築することが、IoT社会の実現に不可欠といえます。

*IoT端末:インターネットにつながれて、情報のやりとりをする機器の総称。センサから得られた情報をもとに、IoT端末どうしが連携して省電力化を図ることも可能になります。

IoT社会に向けた新たなエネルギーシステムの構築

ICT機器、家電、自動車など、あらゆるモノに省電力化が必要!



～増加し続ける電力需要に対応し、IoT社会の実現に貢献～

高付加価値の“エネルギーユニット”で、さまざまなパワーソリューションを提供

TDKは、電源やリチウムポリマー電池などをはじめとするパワーソリューション関連製品の豊富なラインアップを有しています。これからは、個々の製品販売からハードウェアやソフトウェアと組み合わせた高付加価値のエネルギーユニットへと軸足を移し、きたるべきIoT時代に向けて、

「エネルギー変換」「エネルギー制御」「エネルギー貯蔵」の3つの分野で、エネルギーを自在に操る技術とノウハウを活かし、付加価値の高いパワーソリューションの提案を推進していきます。

TDKのパワーソリューション関連製品

エネルギー変換

xEVのバッテリー電力を高効率変換

【xEV用DC-DCコンバータ】

xEV(電気自動車)のメインバッテリーの高電圧を車載電子機器用の低電圧に降圧して、補機バッテリーを充電する役割を果たします。先進の回路設計技術による小型・高効率が特長です。



エネルギー制御

IoT端末に応用可能な小型モジュール

【IC内蔵基板“SESUB(セサブ)”技術】

SESUBは、薄く加工したICチップを基板内部に埋め込む技術です。スマートフォンに搭載され、電力消費を制御するパワーマネジメントユニットなどの小型モジュールのほか、ウェアラブル端末やドローンなど多種多様なIoT端末への応用も期待されています。



エネルギー貯蔵

小型・薄型・高容量を実現

【リチウムポリマー電池】

TDKのリチウムポリマー電池は、電解液をゲル状のポリマーに置き換えることで、小型・薄型・高容量を実現しています。この特長を活かして、スマートフォンをはじめとするICT市場に加え、ロボットやドローン向けのバッテリーなど、新たな市場開拓にも積極的に取り組んでいます。





フェライトを原点とする素材技術、素材の持ち味を引き出すプロセス技術など、長年にわたって培われた総合技術力がTDKの強みです。絶えず時代の変化や最先端のニーズに対応することで、世界有数の電子部品メーカーへと発展を遂げてきたTDKの歴史をシリーズでご紹介します。

第2回「無線機とラジオの発達とともに躍進」

1930年代～1950年代



フェライトコアが採用されたラジオ
(1941年製)

ラジオ用の大量受注によりフェライト事業が本格化

1937年、世界で初めてフェライトコアの生産を開始したTDKは、無線機やラジオのメーカーを中心に積極的な営業活動を展開しました。その努力が実り、1940年にラジオのミュー同調器*のコアとして大量注文を受け、フェライト事業が本格化しました。さらには、海軍や陸軍の無線機などにも採用され、生産量は年間で数10万個に達し、終戦(1945年)までに、のべ約500万個が出荷されました。*フェライトコアをコイルの中で動かして放送電波の周波数に同調させる部品。

新方式ラジオの普及により注文殺到

終戦直後の経済停滞の中、TDKの苦境を救ったのもラジオでした。1947年、GHQは再生妨害を起こす従来の並四方式のラジオの生産を禁止し、高性能なスーパーヘテロダイン方式を推奨する通達を出しました。この通達を受け、40社近くあったラジオメーカーが一斉にスーパーヘテロダイン方式のラジオの生産を始めました。スーパーヘテロダイン方式の回路に使われる中間周波トランス(IFT)を作るには、フェライトコアが必要不可欠であったため、TDKにフェライトコアの注文が殺到しました。

セラミックコンデンサの量産も開始

中間周波トランスにはフェライトコアとともにセラミックコンデンサが使われます。スーパーヘテロダイン方式のラジオが普及し始めると、セラミックコンデンサが不足するようになりました。セラミック材料の製造工程はフェライトの製造工程と共通点が多かったことから、TDKは1950年、セラミックコンデンサの自社開発を決断して研究を進め、1951年には低誘電率系の円筒コンデンサ、1955年には高誘電率系の円板コンデンサを製品化しました。素材技術をベースとする総合電子部品メーカーとしてのTDKの発展の基礎は、この時代に築かれたのです。



円筒セラミックコンデンサ

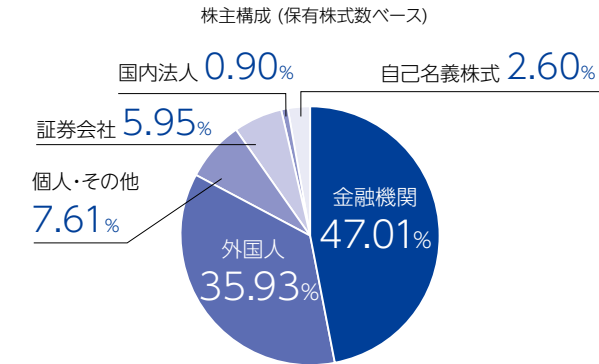
《TDK History 第3回》は、「テレビ時代の到来、カセットテープ事業の大成功」をご紹介します。

会社概要・株主の状況

会社概要 (2017年9月30日現在)

商号	TDK 株式会社 (TDK Corporation)
本社所在地	東京都港区芝浦三丁目9番1号 芝浦ルネサイトタワー
設立年月日	1935年12月7日
資本金	32,641,976,312円
従業員数	102,987名
HPアドレス	http://www.tdk.co.jp/

株主の状況 (2017年9月30日現在) 株主数 23,535名



IR年間スケジュール

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通期決算発表			第1四半期決算発表			第2四半期決算発表			第3四半期決算発表		
招集通知送付			株主総会開催 期末配当金支払い開始			中間配当株主確定			中間配当金支払い開始		
									期末配当株主確定		

役員の状況 (2017年9月30日現在)

取締役 (*印は社外取締役)	執行役員
代表取締役 上釜 健宏	社長 石黒 成直
代表取締役 石黒 成直	副社長 植村 博之
取締役 山西 哲司	専務執行役員 小林 敦夫
取締役 逢坂 清治	専務執行役員 逢坂 清治
取締役 澄田 誠*	専務執行役員 Joachim Zichlarz (ヨアヒム・ツィヒラルツ)
取締役 吉田 和正*	常務執行役員 齋藤 昇
取締役 石村 和彦*	常務執行役員 山西 哲司
監査役 (**印は社外監査役)	執行役員 桃塚 高和
常勤監査役 米山 淳二	執行役員 永田 充
常勤監査役 四居 治	執行役員 Joachim Thiele (ヨアヒム・ティエーレ)
監査役 八木 和則**	執行役員 今本 敬一
監査役 石黒 徹**	執行役員 末木 悟
監査役 藤村 潔**	執行役員 Norbert Hess (ノルベルト・ヘス)
	執行役員 Michael Pocsatko (マイケル・ポチャッコ)
	執行役員 Hong Tian (ホン・ティエン)
	執行役員 Albert Ong (アルバート・オン)
	執行役員 松岡 大
	執行役員 疋田 理